

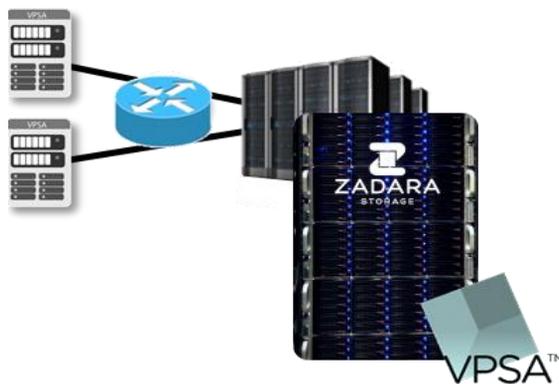


## 導入成功事例

### 株式会社インプレスホールディングス様

インプレスグループの事業向け仮想化基盤として  
CDS-SVM9000を導入

株式会社インプレスホールディングス様は、従来使用していた仮想化基盤の更新に伴い、サービスの充実・向上を目的にサーバ応答の高速化、並びに、柔軟性の高いストレージ基盤を実現するためCDS-SVM9000システムへの移行を行いました。

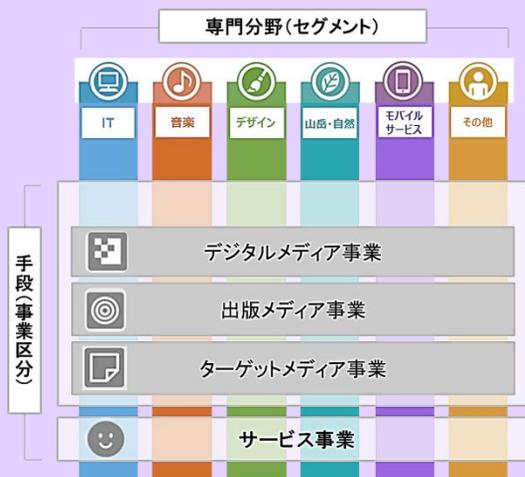


これまで仮想化基盤のデータストアは、仮想ホストのローカルディスクとNFSベースの共有ストレージという2種類を利用していましたが、CDS-SVM9000ではデータ領域毎にコントローラ性能を変更できるため、多様なWebサイトを運営するインプレスグループ様の要件に合ったストレージ環境を柔軟に提供できるようになりました。

#### 株式会社インプレスホールディングス

インプレスグループは、IT、音楽、デザイン、山岳自然、モバイルサービスなど専門性の高い分野で、Webや電子出版、雑誌、書籍など重層的なメディア展開を通して情報の発信と提供を行っています。

グループ会社には、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセス数を誇るデジタル総合ニュースサービス『ImpressWatch』などを運営する株式会社インプレスのほか、国内最大級の楽器検索サイト『楽器探そう!デジマート』を運営する株式会社リットーミュージックなどがあります。



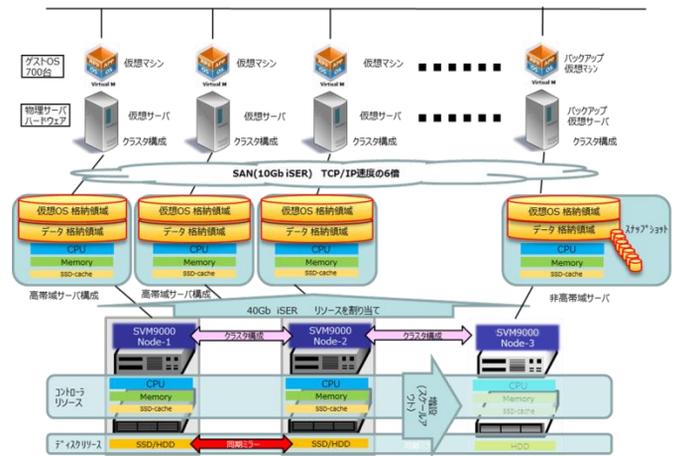
世界の最先端IT技術を日本のお客様に

Server-Storage Virtualization Manager Package  
Virtual Private Storage Array System  
CDS-SVM9000

## 導入効果

- すべての仮想マシンを共有ストレージへ配置することで、障害時の復旧時間が飛躍的に短縮できた。
- SSDをキャッシュとして利用することでI/O遅延を大幅に解消できた。
- 高速プロトコルによってサーバの応答性が数倍向上し、共有ストレージへのI/O集中にも問題なく対応できた。
- データ領域毎にコントローラ性能をカスタマイズできるため、高速応答を必要とするサーバと応答速度を必要としないサーバでI/Oの調整ができ、ストレージI/Oを必要なところへ割り当てられるようになった。
- 安価に大容量を確保でき、バックアップも容易に行えるようになった。

## システム構成



- 各サーバが必要な仮想ストレージを割り当て
- リダンダント構成により複数のコントローラにリソースを割り当て
- ディスクは、コントローラ間で同期ミラー
- 高速SSDと大容量の組み合わせが可能
- 最小2台からスケールアップ・スケールアウトが可能

### お客様の声

これまで、仮想マシンの格納先は、仮想サーバのローカルディスクや、NFSベースの共有ストレージへ分散して配置していましたが、CDS-SVM9000の導入によりデータ応答性を格段に高速化できました。

冗長構成による高い可用性や、VMware環境に最適なiSER技術を利用できるようになったこと、SSDキャッシュなど高速化に必要な要素だけでなく、リソースや容量の割り当て変更を柔軟に行えるため、管理者として運用が楽になっただけでなく、事業継続性の面からも有効な基盤になったと考えています。

世界の最先端IT技術を日本のお客様に